

(長泉麗峰山の会・山行報告書		文・写真 後藤
山行番.	N0. 2103	
日 時	2025 年 12 月 06 日 (土) 晴・風なし	
山 域	北ハツ・北横岳 (2480m)	
コース	竜源橋 6:00-天祥寺原 8:01-亀甲池 8:41-北横岳 11:16-昼食-亀甲池 12:54-竜源橋 15:00	
標高差	竜源橋約 1640m～北横岳 2480m=約 840m	
難易度	非常に困難 困難 レやや困難 普通 やや易しい 易しい	
今期初雪山で初ラッセルに終始		
参加者	後藤、勝又、峰田 (現地まで) =3 名	

北横岳は 2023/03/04、4 名で挑んだが、深い雪に翻弄され登頂は I 君のみ。3 名（後藤、加藤、星）は標高約 2200m で敗退した。今回はそのリベンジ。

山行参加者は、3 名だったが、山に向かったのは 2 名。M は靴を忘れ麓で待機した。靴忘れは私も昨年 4 月、女峰山山行時忘れた。ただ、その時は、IC を降りる前に気が付いたのでワークマンを探し、3900 円で「鉢付き長靴」を購入し事なきを得た。

4 月の雪はグジャグジャで登山靴はビジョビジョ。長靴は全く濡れず「怪我の功名」だった。M は夕方、宿到着時気が付いたので調達出来なかった。



バックは蓼科山

天祥寺原

翌朝、宿出発時フロントガラスはガジガジで熱湯を掛けた。庭の池も一面の氷だった。登山口の竜源橋に車はなかった。そもそも、ここを上る「モノ好き」は多くない。ランプで出発。雪はクルブシ程度でトレースはなかった。

天祥寺原に着いたが朝日はまだ蓼科山中部で下部に届かず暗くて寒い。冬山で「寒い」は我慢できるが「暗い」は辛い。一概に冬といっても、12 月の冬至前と 3 月の春分前とは、太陽の高さが相当違う。

文献では、東京で冬至は約 32 度、春分は約 55 度、夏至は約 78 度という。前回、3 月は陽光が溢れていた天祥寺原だが、北横岳の北面で完璧に「一日陽かけ村」だった。



2023/03/04 龜甲池

亀甲池に向かう。「鹿トレース」が続いた。鹿トレースは、ないよりも楽だった。鹿も登山道が楽なのだろう。

池から山頂まで標高差は約 430m。夏なら 1 時間ちょっと。しかし前回同様、地獄が始まった。標高差は、まあまあだが急な上、歩く人が少ないので荒れに荒れている。それに締まらない、捉えどころのないフカフカの新雪が膝まで潜った。

北面で暗く全く展望がない原生林が延々と続く。前回唯一登頂者の I 君も後日、「過去最高にきつい登りでした」と語っている。



亀甲池



お汁粉タイム

兎に角、山頂まで長かった。10歳若いKがラッセルを頑張った。「もうイヤになる」寸前、山頂に達した。山頂直下でようやく展望が開けた。明るい陽光が溢れ希望に満ちた山頂だった。登山がいかに「展望」で元気つけられるかを物語っていた。

山頂は若い衆が数名居た。今回、竜源橋から誰も居なかつたから、皆さんピラタスから上つた。しかし、この日はロープウェイが点検で運休。従つて駐車場から上つた。標高差は約730m。まあまあ丁度良いでしょう。



北横岳山頂



Kさん

山頂に長居は無用だった。写真を收め下る。すぐ下の風の無い所で簡単な昼食。空腹も半端でなかった。下りも厳しい。雪が緩いので滑る。怪我が怖いので途中でチーンアイゼンを履いた。アイゼンの調子は良かった。

Kは先行したが、空腹に耐えきれず天祥寺原で大休止。誰も居ない静かな雪山だった。若い人は速い。稲荷を二ッ食べた。美味しかつた。駐車場に15時。往復9時間。限界だつた。麓待機のMとIC近くのローソンで合流。聞けば、歩いて「富士見パノラマ」を往復した。3~4時間掛かつたらしい。うへん、頑張つた。偉いね！！